



公益財団法人 School Aid Japan バングラデシュ通信



2013年8月号 No. 8

日本の生徒と交流

7月15日、NDMHSに学校法人郁文館夢学園から教員1名、生徒5人が来校し、日本の文化紹介ということで、「書」と「音」をテーマに教室で授業をしてくれました。

「書」の教室では、初めて感じる墨の臭い、独特の質感が生徒たちを惹きつけました。ここでは自分の好きな言葉をベンガル語から日本語に翻訳し、郁文館の生徒にお手本をタイムリーに書いてもらい、それを模写しました。日本人顔負けの字を書く生徒もおり、私たちもこれには驚きました。

筆者はベンガル語をはじめ、他国の言語字体を初めて見たときには、まるで何かの絵みたいだと思ふことがあります。彼らにとって今回の「書」を通じて知った日本語は、言語としてではなく、絵に近いイメージだったのでしょう。それぞれの生徒が思い思いの字を書き、楽しんで書いておりました。

「音」の教室ではリコーダーを用いて「音階」を学習しました。バングラデシュにも日本と同じ音階のシステム(バングラデシュでのドレミファソラシは、ドに当たるものから順に、サレガマパダニ)が広く知られていますが、実際の楽器を使って音を出したことが無い生徒ばかりです。リコーダーからは喜びの音があふれておりました。最後には郁文館夢学園の生徒たちによる生演奏で幕を降ろしました。

2時間に及ぶ交流の後、郁文館夢学園から、リコーダーやピアノカ、サッカーボールを寄附して頂きました。今後授業で大切に使用したいと思います。



郁文館の先生・生徒たちが来校しました



書道を教えてもらいました

夏休みへ

感謝の気持ちを込めて校舎を大掃除し、8月1日には、保護者会を兼ねた二学期の終業式を行いました。各先生方からは、夏休みの学習や生活について、古澤校長先生からは、ここまでの生徒たちの頑張りとお話がありました。

生徒たちは通知表を見て、どのように感じたのでしょうか。ここまでの頑張り振り返り、反省点なども踏まえて9月には担任の先生と一緒に学習計画を立てます。「次は表彰台を狙ってやる！」と唇を噛みしめた生徒もいました。

NDMHSは、約一か月の夏休みに入りました。次回の登校は9月1日です。



学期末の大掃除



通知表が配られます